

新川会通信

第47号

すまいる

発行
社会福祉法人新川会〒930-0362
上市町稗田字七郎谷1-32
Tel(076)472-1118
Fax(076)472-5391
E-mail yotsubaen@niikawakai.jp
HP http://www.niikawakai.jp/

発行責任者 川上邦夫



平成三十年から取り組み始めたラベンダー栽培も三年目を迎えました。ラベンダーを畑いっぱいに咲かせ、ラベンダーの商品を増やすことを目的に、雷鳥苑をはじめ法人内の事業所が毎週水曜日に畑に集まり、合同での活動を行っています。始めに、畑の整地から取り組みました。雷鳥苑の畑は粘土質で水はけが悪く、運するたびに出てくる石を運び出し、運んで自う耕で使う度もバケツに石を入れ運んできました。うね作りでは、クワの使い方を教わりながら作っていましたが、本数をこなすごとに手際も良くなつていきました。部で十三本の畝を作り、三百三十本の畝を、二年目には二百五十本の苗を植え付けていました。六月下旬から花が咲き始め、満開に咲いた時には利用者さんや職員からも「うわあ～咲いた」「きれいだね」という歓声と笑顔が見られました。暑い中、花の摘み取りや草むしりに汗を流しました。収穫した花は乾燥させ、香りの作品作りにも取り組みました。ながら、作品作りにも取り組みました。雷鳥苑施設長 山本美幸

ラベンダー栽培に取り組んで



四ツ葉園

令和二年、世界中に新型コロナウイルスが流行し、日本国内、富山県でもコロナウイルス感染症対策が急務となりました。社会全体も「ソーシャルディスタンス」を保ち「マスク着用」と「三密」を防ぐ生活様式に変わりました。今回は、四ツ葉園の利用者さんと職員で行っているコロナ対策の取り組みとその様子を紹介します。

vs.コロナからwithコロナへ

四ツ葉園施設長 藤木 和美

『感謝』先ずはこの言葉しかありません。

利用者の皆さん、保護者の皆さんの御協力、そして一致団結して臨んだ職員の踏ん張りが三位一体となり、全国のコロナウイルス感染症第一波を無事に乗り越えられることができました。本当にありがとうございました。

「どうとう来た…」三月に富山で感染者第一報が出た時には、園内

の消毒や手洗いなど出来ることか対策は進めていたものの、いよいよ迫ってきた現実に不安と恐怖を感じました。「vs.コロナ」の始まりです。嘱託医のアドバイスのもと「持ち込まない、持ち出さない」をスローガンに感染症対策を強化しました。

予防策としては

- ①換気や消毒など園内の環境整備の継続
- ②こまめな健康管理、マスク着用、手洗い励行
- ③保護者会来園日、帰省の中止
- ④教室活動や外出を伴う活動、地域行事の中止

感染拡大防止策としては

- ①使用する衛生用品の確保
- ②男女ユニットの生活空間を二十四時間体制で完全に住み分け、職員も各ユニット専属とする
- ③万が一のことがあっても職員数が落ちないように勤務体制を調整し確保

藤木和美

『感謝』先ずはこの言葉しかありません。利用者の皆さん、保護者の皆さんの御協力、そして一致団結して臨んだ職員の踏ん張りが三位一体となり、全国のコロナウイルス感染症第一波を無事に乗り越えられることができました。本当にありがとうございました。

とりわけ帰省の中止は約四ヶ月間に及び、利用者の皆さんも保護

者の皆さんも大変なことであつたと思います。「生まれてこのかた、こんなに会わなかつたのは初めて」と言われる保護者さんも少なくなく、少しでも安心していただきたく、帰省中止期間中はこまめに利用者さんのご様子を近況のお写真と共に届けました。



そして、新しい生活様式「withコロナ」の開始です。備品の確保や消毒など環境への配慮の継続、新しい業務様式であるマスク・手袋・ゴーグルの着用と熱中症予防との兼ね合い、感染率の高い食事場面での食事場所の分散やアクリル板設置、日々の活動や行事のあり方の検討など、早速取りかかっています。今後も山積みですが、課題は他にもあります。利用者の皆さんには今年の七夕の短冊に「健康でいたい」「おいしいものを食べたい」「お仕事頑張ります」「お父さんもお母さんも元気で」と思い思いの気持ちを込めておられました。こんな時期だからこそ、ほっこり笑顔を増やせますよう、お一人お一人の気持ちを大切に支援させていただきたく思います。





四ツ葉園だより

お楽しみ 屋台

六月三十日(火)に「お楽しみ屋台」を行いました。コロナウイルス対策で楽しみにしていた親子会食も中止になりました。制限された生活を

利用者の皆さんのが頑張つてくださいたおかげで、当日はみんな健康で全員参加で楽しむこ

とができました。



四ツ葉園初のバイキング方式の会食。おかげやデザート、お菓子も選択制にしました。また、お楽しみ屋台のもう一つの試みとして「自由席」を設けました。いつも決まった場所での食事ですが、自由席では男性利用者さんと女性利用者さんが一緒にテーブルで食べているところもありました。

夏祭り会

毎年行われていた納涼祭が中止となり、その代わりに利用者さんに夏を感じてもらいたく、八月十日(月)に「夏祭り会」を開催いたしました。



利用者さん達は今まで頑張つてくださいた分、久しぶりに本当に楽しい時間を過ごせたと思いました。

(村上支援員 記)

オープニングに職員のバンド演奏がありました。夏らしい「ウクレレ」の音色に合わせ利用者さんに馴染みのある曲が披露されました。利用者さんは鈴や鳴子を鳴ら



(宮本支援員 記)

してリズムに乗り、会場が盛り上がりました。また、昼食には素麺、鶏のから揚げ、おにぎりの他に、つつじ苑の「どんどん焼き」、さつき苑の「ポップコーン」、雷鳥苑の「かき氷」とボリューム満点の食事を味わいました。その次に「紐くじ」をしました。紐の先に景品が付いており、何が出るかは紐を引っ張つてからのお楽しみ!七夕の願い事の発表も兼ねて行い、夏らしく笑顔あふれる夏祭りとなりました。

雷鳥苑だより



お楽しみ 会食

コロナウイルス感染症の流行により、皆さんが楽しみにしていた行事が中止となつていることを受けて、七月一日（水）にお楽しみ会食を開きました。会食では雷鳥苑保護者会からお弁当を用意していただきました。五月から感染症予防対策として二ヶ所に分かれて食事をしていますが、この日だけは、一緒に会食を楽しみました。皆さんと顔を合わせて食べるお弁当はより一層美味しく感じたものと思います。



(長瀬支援員記)



八月四日（火）に七夕をしました。前日から生活介護の利用者さんが中心となって七夕飾りを作りました。当日は、一人一枚の短冊に皆さん思い思いの願い事や今後の目標などを書かれました。今年の七夕の短冊には「早くコロナがおさまりますように」という願い事を書かれている方が多かったです。

一日も早くコロナ感染症の脅威がなくなることを私たちも切に願っています。

七夕会

工房よつばだより



工房よつばでは、今年度も玉ねぎ、茄子、ピーマン、オクラなど様々な野菜の栽培に取り組んでいます。たっぷりの日差しと恵みの雨を受けて野菜たちは日々ぐんぐん成長しているのです。が、サルなどの野生動物のターゲットとなり、収穫時の野菜が丸々なくなつてしまっている時もあります。そんな中でも現在は、順調に野菜を収穫できていて、中検品、袋詰めをしてコンビニなどに納品しています。野菜の価格が高騰している中でリーズナブルな価格での提供を心掛けています☆

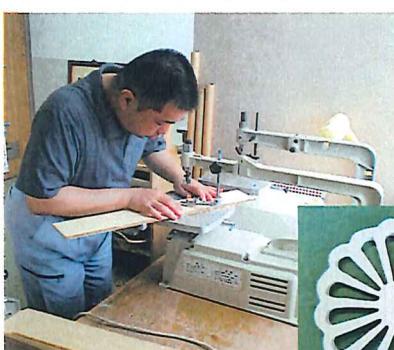


(朝岡支援員記)

七月二十九日（水）には、畑で収穫したじゃがいもを使用して「ポテトチップス」作りを行いました。じゃがいもの皮をむいてからスライサーで薄くカットし、水気を切って油で揚げていくと事務所内に食欲をそそる香りが広がりました。自分たちで育てたじゃがいもと一緒に野菜の価格が高騰している中で、リーズナブルな価格での提供を心掛けています☆



畑作業&おやつ作り



さつき苑だより

工芸グループ (生活介護)

さつき苑工芸グループには利用者さん七名が所属しています。活動内容は、木工作品の製作、農作業、作業ツールを使用した療育活動などであります。木工作品は糸ノコを使

用して様々な形に木をカットして、キーホルダー、コースターなどを作っています。菊の形をかたどったコースターは、国会議事堂の売店に納品して販売しています。



今後もより良い活動ができるよう工芸班一同頑張っていきます。

(藤井主任支援員 記)

どんな風にしようかな?



めずに自由な作品を作りました。作り方は、最初に厚紙や糸などをちぎつたり切つたりし、それを画用紙に貼ります。次に、その上に絵の具を塗り、紙を置いて押し伸ばし、紙を剥がします。

つつじ苑だより

造形活動 (紙版画)

つつじ苑では、通常の日課の合間に縫つて皆さんのが好きな造形活動を取り入れています。今は一日間に渡り紙版画を行いました。

初回は、テーマは決めずに自由な作品を作りました。作り方は、最初に厚紙や糸などをちぎつたり切つたりし、それを画用紙に貼ります。次に、その上に絵の具を塗り、紙を置いて押し伸ばし、紙を剥がします。

違った顔の眉や口などを切り取つて画用紙に貼り付けます。あとは絵の具を塗り、上に紙を置いて押し伸ばし、剥がして出来上がりです。

できあがり!!
似ているかな?



絵を描く事やちぎり絵が好きな方も多い、紙版画でも絵を描いたり紙をちぎつたりする工程があり、皆さん楽しそうに作つておられました。どの作品も個性あふれる創造性豊かな作品になりました。



(宮川支援員 記)

グループホームだより

グループホーム夏祭り

八月八日(土)、四つのグループホームが「つみだにの家」に集まり夏祭りを行いました。

ラーメン、たこ焼き、どんどん焼き、ポップコーン、かき氷など食べ物も盛りだくさん。輪投げやヨーヨー釣りなどゲームも皆さん楽しんでおられました。

花火楽しいな



涙～の～リクエ～スト



(林支援員記)

職員によるウクレレ演奏で利用者さんの飛び入り参加もあり、最後は皆で花火をして楽しい時間を過ごすことができました。

医務室だより

四ツ葉園の新型コロナウイルス感染症対策

七月三十日

(木)、看護職員等資質向上実務研修に参加しました。

この研修では、コロナウイルスの特徴、感染経路などについて、標榜予防対策を徹底して行えば飛沫・接触感染による感染リスクを低下させられることを学びました。

当施設の対策として、段階的に園内感染予防対策レベルを引き上げ、面会・帰省の中止や男女利用者さんの生活空間分離などを実施しました。また、園内の対策の現状や感染者が出た時の対応など、嘱託医にも指示を仰ぎ、その都度改善しました。

一方、手指消毒や三密回避には困難を伴う場面も多く、消毒液やハンドソープを流す方、ペーパータオルを捨てる方もおられます。そのため消毒物品は鍵付の棚の中に設置しており、手軽に手指消毒を行えない環境が意識の低下にもつながってし

まっているのではないか。また、換気を行えば、窓を閉める方や外出へ出て行かれる方などもおられ、対応に悩む日々でもありました。

「新しい生活様式」への変化が必要である中、変化に苦手な利用者さんのほとんどは「変わらない生活様式」を求めていました。帰省中止や人的距離・コミュニケーション方法を変えるを得ない状況下で利用者の方々の混乱も多く見られていました。

このような現実を、富山県中部厚生センターやかみいち総合病院の感染管理認定看護師に相談し、介助者が徹底した予防対策を行い、少しずつでも利用者さんを巻き込みながら実施していくことが重要であると返答いただき、その意識で現在も予防対策を実施しています。

この先、今まで以上に当たり前となっていく標準予防対策を、利用者さんに寄り添いながらも徹底して習慣化していくことが私の務めと感じています。今後も学びを深め、啓発・実践していきたいと思います。

(四ツ葉園大橋主任看護師記)